

萬國人物圖會

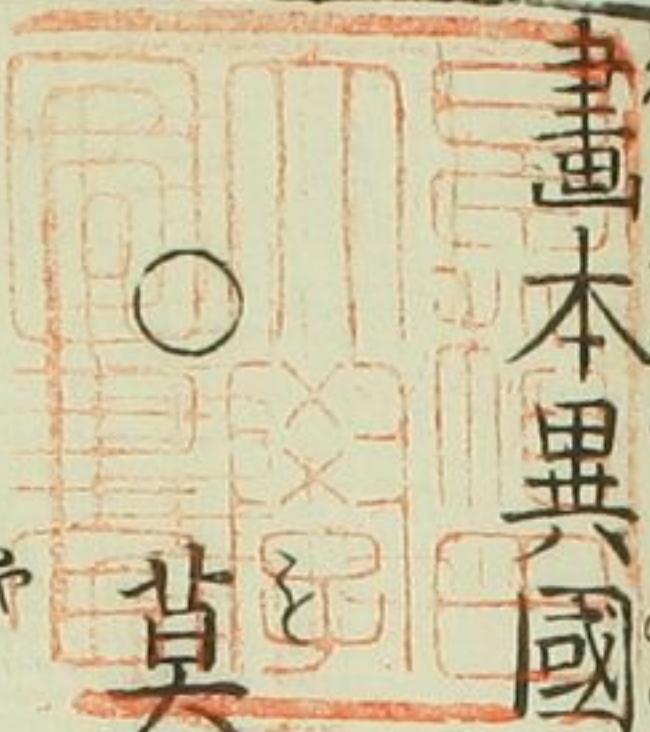
下

特別
13
3458
2

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

門 13
3458
卷 2

畫本異國一覽卷之四



○ ○ ○ ○ ○ 孝 琴 壬 頭 國 國 國 國 國
莫 斯 哥 未 亞 國 ○
伯 兒 齋 亞 國 國 國 國 國
亞 莫 獨 刺 國 波 登 國 國 國
莆 家 龍 國

大學圖書館
26.3.8.
購

○莫斯哥未亞國

歐羅巴の東北の地過半と蠶食
モ帝都とムスコビイと称モ少極
出地六十五度の而テてもモ
寒國々少々自海にスル
海もとく氷て多いた
六月はさるの人物色
向く宵も夜後ハ革衣
とテとモとモとばまの人々
弘ん一倍傍テとて居を
とテ人倍人をとひて紺拂ひの
うみをとてなうこれをせよ大
馬うひととて水浴を津
てふ息ヌ絶がのやう



○ 氷 海

小極出地あさひで七八度しへいどより
氷ひきをよ四時よと
氷ひきをよ人ひとの
氷ひきのうをよ往むかへは
スよりよりよとよねねと
うよびよ海うみとよとよおおれれ
ま秦せん西せい國こく說せよよくく

由よ墨くろ



○夜國



○ 都番國

人物顎あく骨傾一
裳むろじ草夜とる者
下よろく家居を送り
仰きも見て表紙を
うなよスモイと
うて日本の石食の
花のとれりの根
を喰ふとえは
おののくわあぬと
まく積たぐふ
をりく富士人
かんじくがゆす
日本玉毛根



○戸頭蠻

北亞墨利加ムラニア國

ウル眼ヌ瞳タク深キ

シレガ首ナケモ

縷ヌ物を食ヒテ

ナヨヤ人モカラ

ダヨウリ日ヒテヨ

とのぞテ幸トテ

ヒマズラ首城のモ

テユツスラと座モ

トイヒヌヌ連多

シジギヌムラビテ

ミドカヘテアヘヌ

ツテアカヒシカ



歌ヨリの衣
カモミラヌ
人う敷キタラ
シテのウチヤ
ミソケハセヨ
ト風アアロ

○亞莫

獨刺國

印度海の南ミミ
あらちいづれ所ミミ
うり人物ミミ
えどはうて
えま画せだま
さんじゆか
き度業ミミカ
ひやこ
そ牙ミミぬまとうりて
おのく地ミミを領ミミじ
他ミミとうと山ミミ
又金銀ミミをも

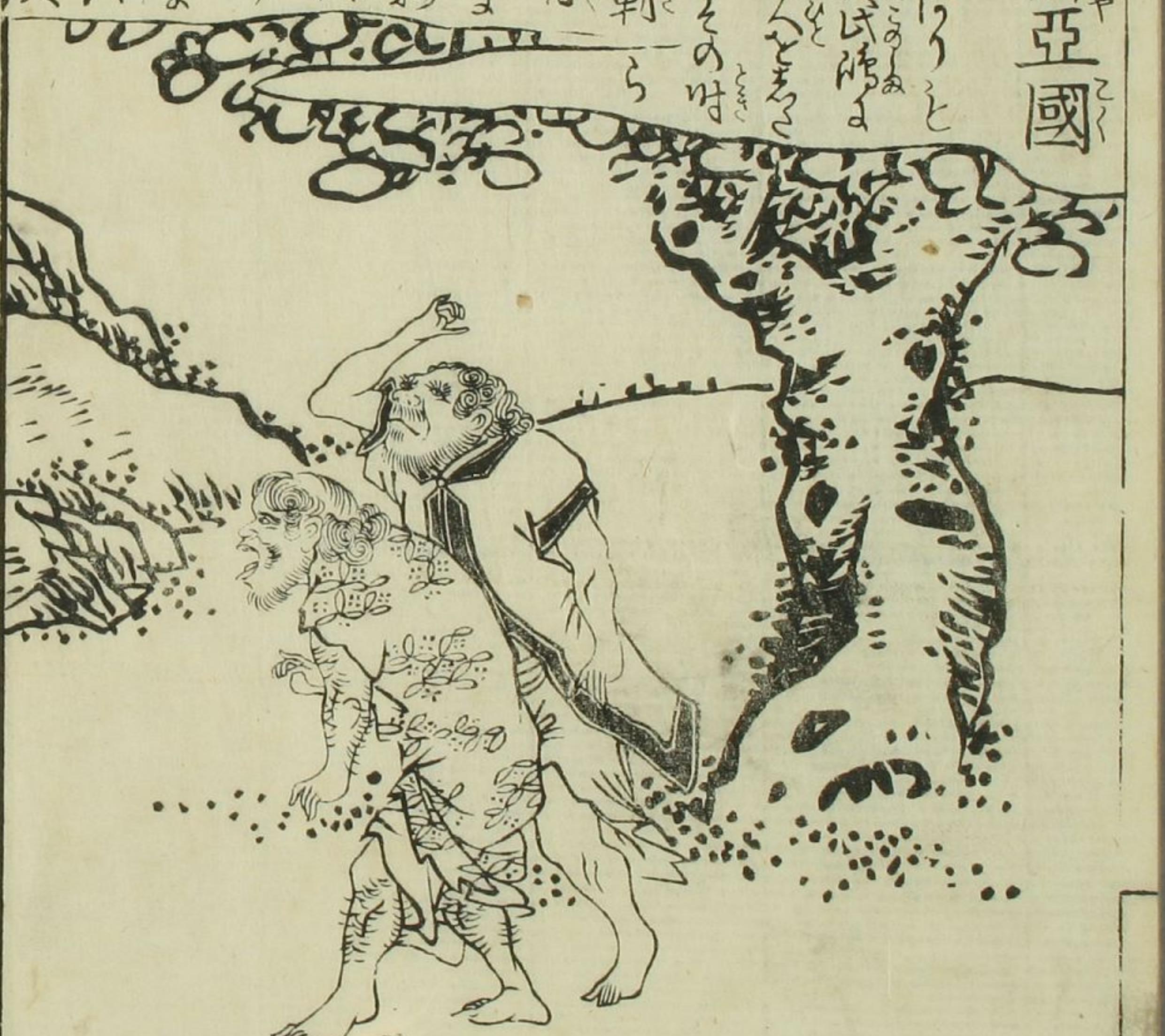
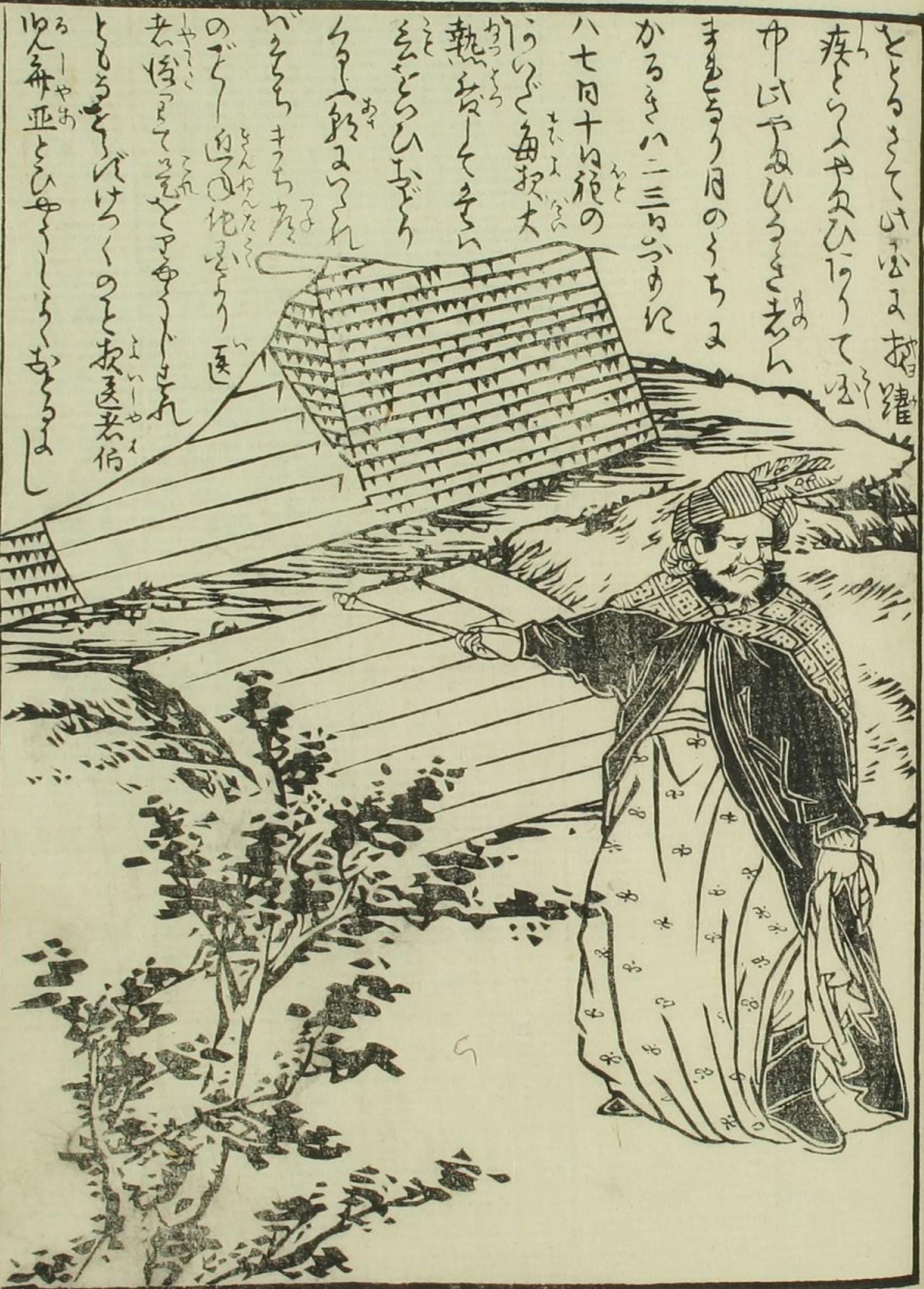


ともなーにまく金の
塊ミミとひねば化るの
あんようとて衣被
食物ミミ易ミミるとう
さかうアスミミ
えたはどうみひ
玉ミミと石ミミア
莫揭刺ミミ



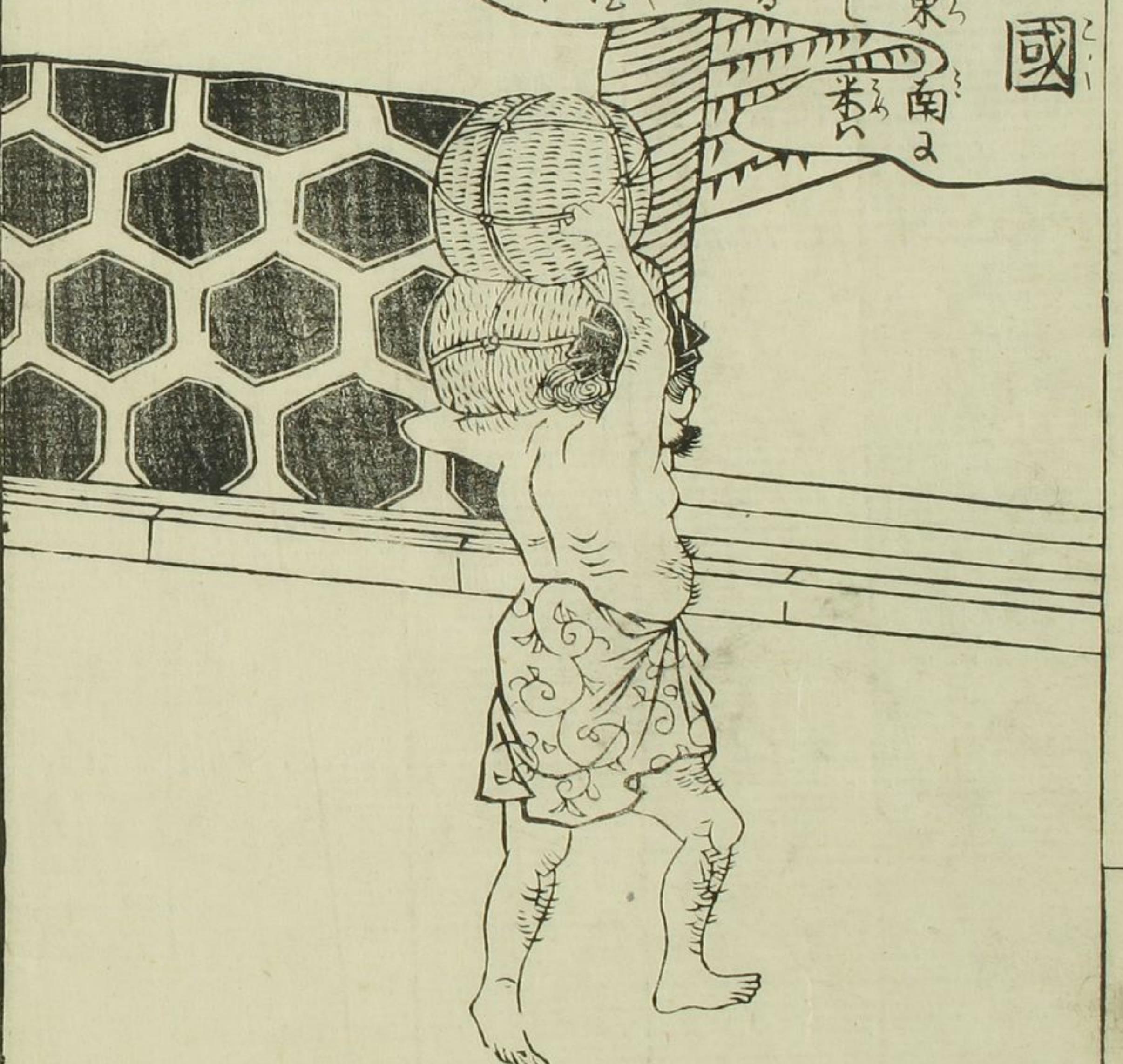
○伯兒齋扇亞國

東天竺の南海よりと
ろく元の代の人は皆よ
漂流して遂に土人となり
ゞくふ王となるとの傳
あよもじとして斬
老の首殺百
級を仰せ
妻を棄て弱體
基となりて國王代
くまよ居す
王人をも除き
くつゆ入
て琅玕珊瑚の如



○ 波登國

ムラタヨリヤマハセの東南
ラス穀熟
一年よ四度づと
海滨よ松下戸の
米庫をよく詰
の高糓をまく
交易をスケイセ
ツケ貿易ナギ
ラクテモ義ニ
ギトトキ



○ 琴牛國

東天竺の地ニシテアホメニ
生るムカシエトモ大ニヨ佛道ヒ
シテズヌ牛の靈ニシテアホメニ
ムルトムクレバムク菊天竺の
孟姑山西南ニシテアホメニ
シテムクヘ通の海ニシテアホメニ
ミツ秋の彼家ニシテアホメニ
生ケ大々々をモリキヨリ猶
モ重鎧山ニシテアホメニ
安あむるよ

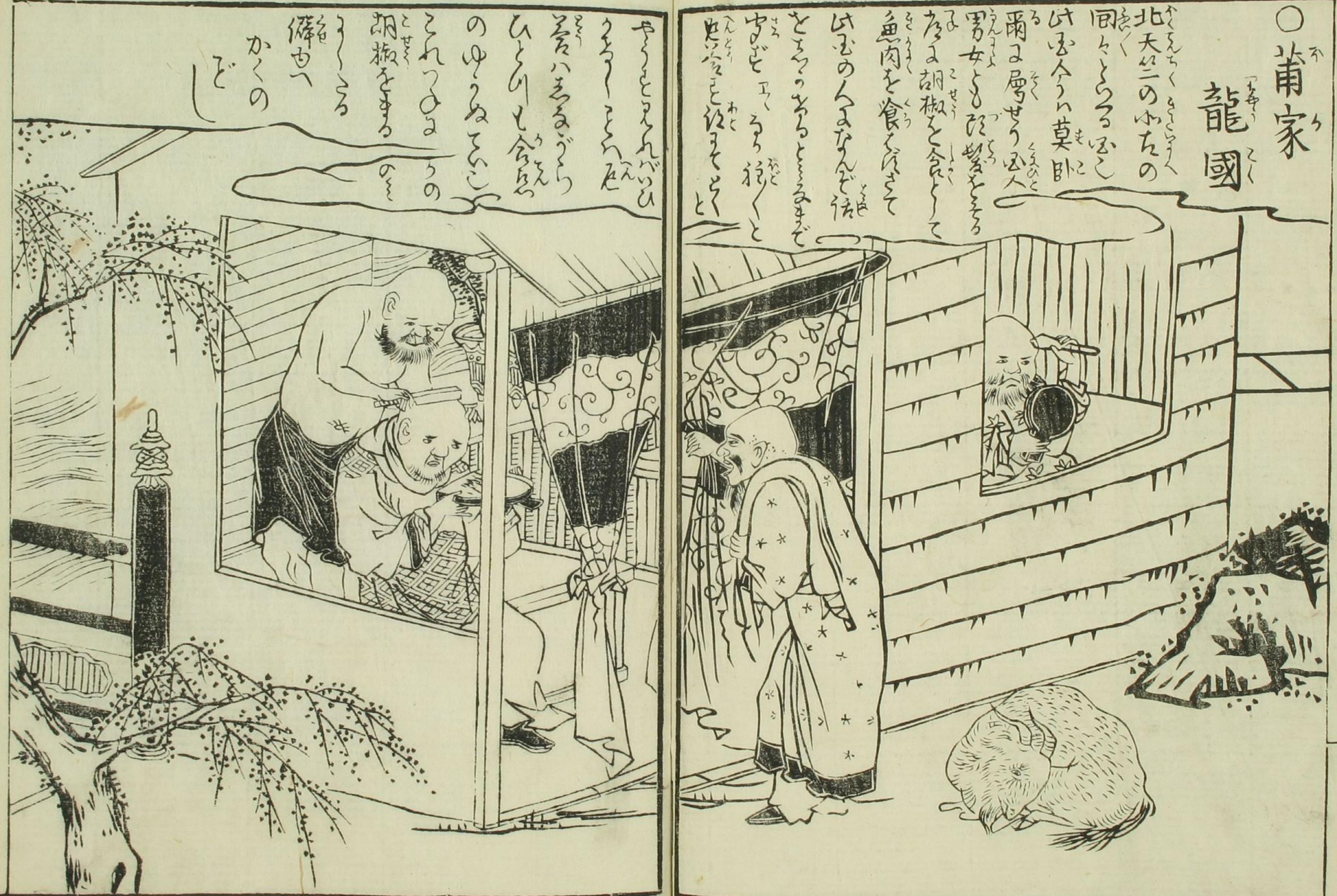
日本ノ傳彼家ノ入日
伏スムヨハム



○
不
蒲家

不
龍國

北天竺の小町の
回々とうるふこ
はふくつら莫日
爾ニ屢せうふ人
男女とも吃蟹をもる
すみ胡椒と食きて
魚肉を食をもきて
は玉のくよなんぞ後
とちりうちらとくみぞ
すまごううねりくと
えどとほそそくと



畫本異國一覽卷之五

○ 智 里 國
○ 天 堂 國
○ 墨 瓦 刺 國
○ 印 都 羅 國
○ 止 波 里 國
○ 諾 樂 馬 國
○ 阿 細 亞 良 國
○ 登 流 眉 國
○ 詞 陵 國
○ 大 日 本 國 書 鋪 之 圖

○ 孝 億 國

土地溫暖
人物多似中國
容貌也似中國
多有旅人
方多歷年
至多浪死
多有比隣



○墨瓦刺國

五大刀加の和毛
南極出地五十度の
辟地アリけ毛の人

翁ニテアリ

ちうらきく

水絶

噴霧

モミ

ツク

からん地人のらきくり

生來吸とあふまし

はふてくらきん

きくおうじゆこう

あくねとくれへき

ともすくうの翁ニテ

くまきるとくうたとくひうた

翁がそよ葉をのませとくもも

ての翁つまこむをあこててある

みやあへとつまみあらへせ翁が

ねむとひとゞぎらのくびぐ

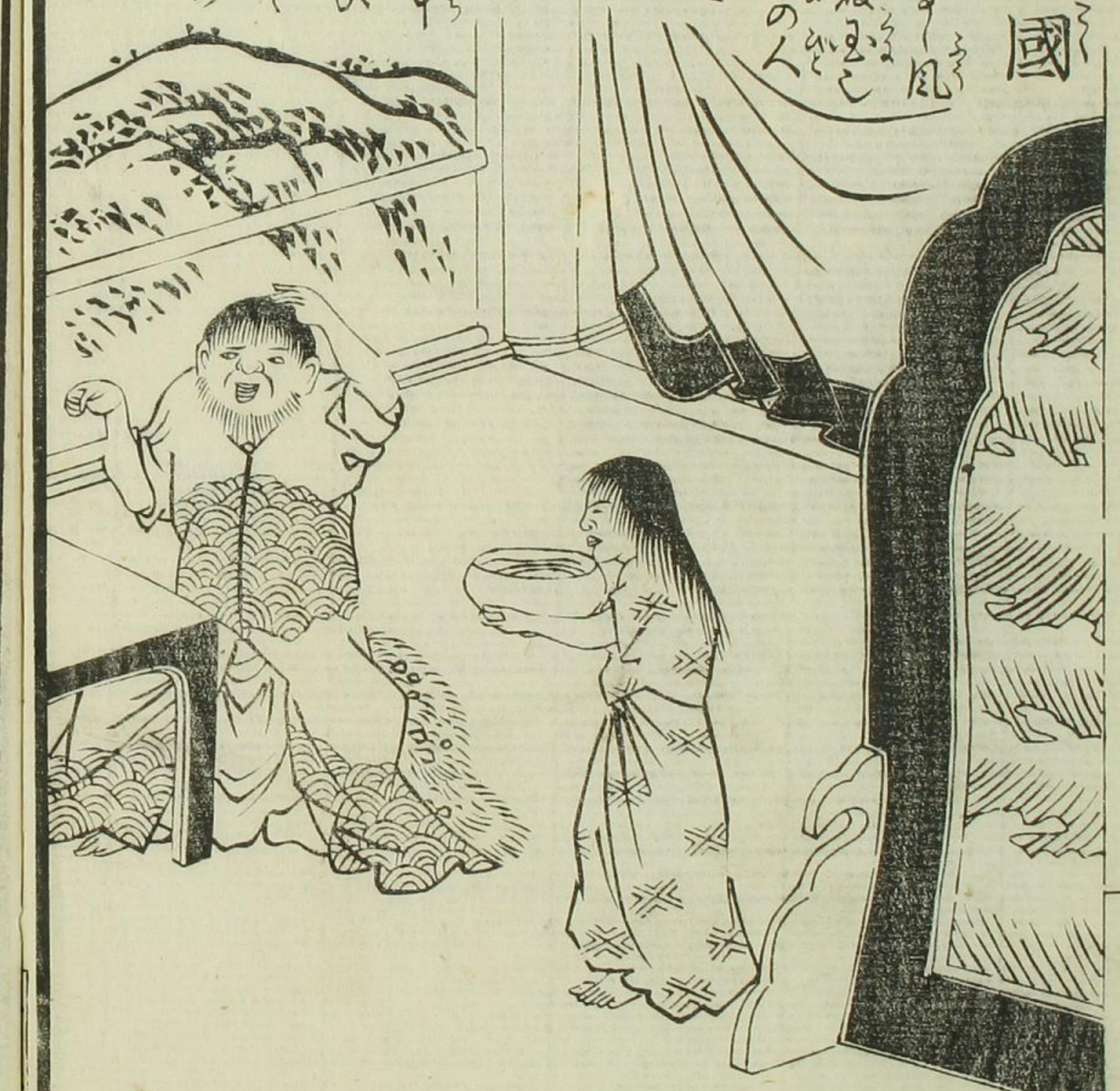
あきてくやうとりへきちうへせま

をかまふときわくもうへがむゑ



○ 許陵國

新候日本とふゆ風
信といやーからぬよ
さうながくはるのく
食もうよ考を
りくびりうち
のニゼんに
ではあく食ふ
まわるよ圖の中
を人うねひ
貝殻と食ひが
もてゆるハヽの
ゆとおど
うす

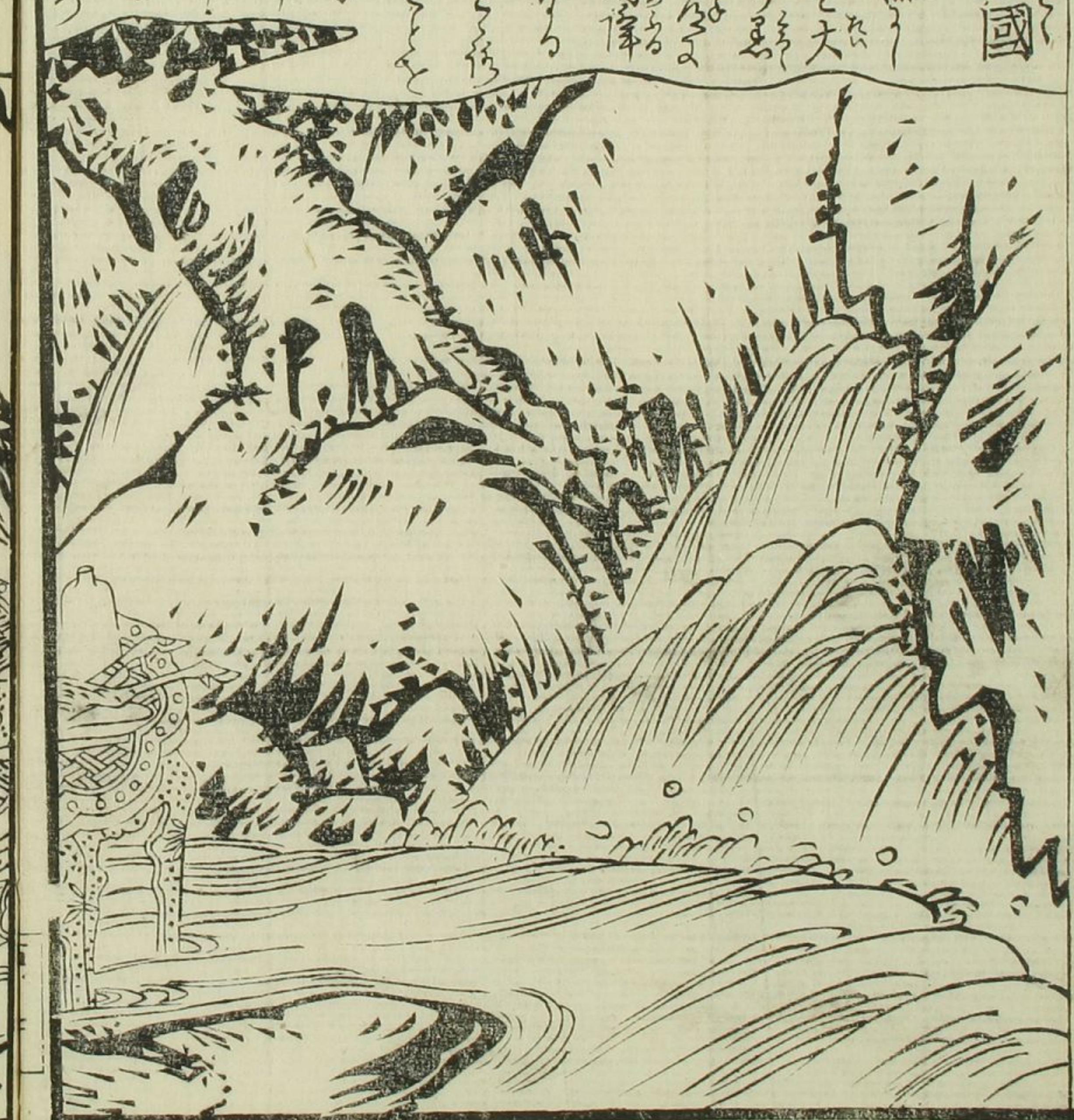


猫
わび
なみんう



○印都四羅國

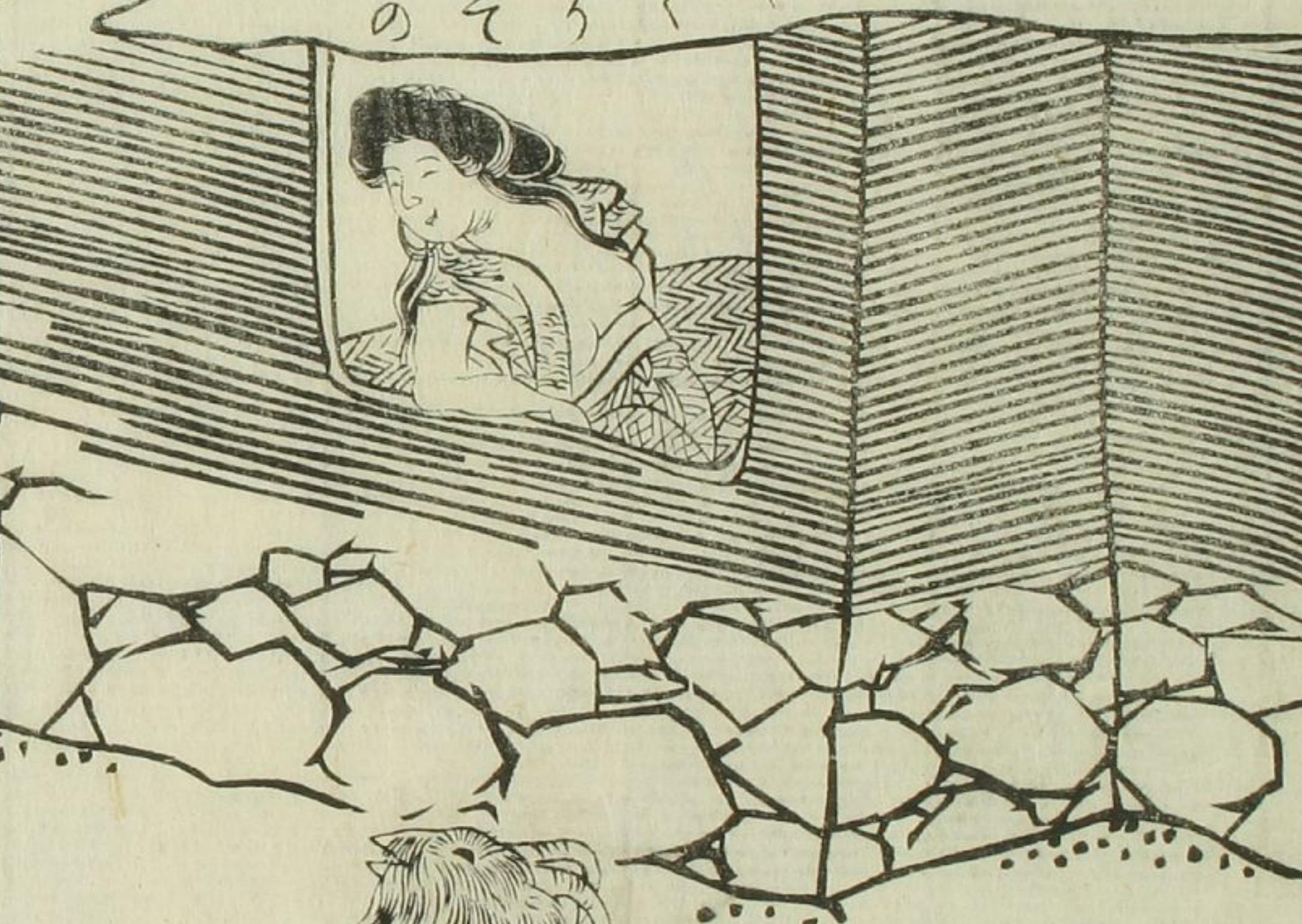
四時とも炎熱(えんねつ)
て毎(まい)二月八月と大
暑(おひさま)人物(じゆうじん)無
あひよ輿(よし)人(ひと)
蒸天(あめんてん)かく雨聲(あめのこゑ)
ととみをと稀(まれ)なる
ゆふ全(ぜん)くにほ
そのものうら
がううのくう
因縁(いんえん)でまく
ハラムキマサ
汁(じる)まきがけうと
つぶくちう



止

波里國

はまゆゑ羊あく
うそのもとゆく
屋紡を織出さう
う人の事とて
難どてつる日暮の
太ひらひ船
辭の虎から
ひきうち流
俄もとて
大も不やるの



虎も嘯くより
されどその理
うへどり
羊のくよ
ほくにく
こつち
絶羊る
画ユ
こゑて
ゆい
あ

○天

堂

國

又天方ふどもつ民云
風景融和すて四
時々春のど
山野よやかだれ
屋裏唐
狹の故人よれてよ
と自然うる人お温
て邪とよびがふ
月を透され代えがめてね
樂んでゐるふたり。堂する



又天方ふどもつ民云
風景融和すて四
時々春のど
山野よやかだれ
屋裏唐
狹の故人よれてよ
と自然うる人お温
て邪とよびがふ
月を透され代えがめてね
樂んでゐるふたり。堂する



○訥樂馬國

骨國

南亞墨利加ヌラハ
男ノミヌ思うヌ

ちらよク言語

どり一生歯れは

ゆきとナーナヤ

ヌ女房の乳

ヌ衣を居ヌ

ヌ女ハチコロ

ヌ才智アライテ

ヌ後アドニキテ

ヌムカニヌ

ヌカモハシ

ヌアケアタ

ヌセイア

ヌ衣脱ヌラアタ

ヌアヌのせ

ヌヒウカの援山

ヌアシガサ房の秀

ヌの



○ 喝細亞良國

大西洋ニシテ皆ふす
ムカム金山ナリム山

ヨヒトウの石量
六尺四方ひ

天をくはと云ス

初生が宝くらむと云

玉の風流い人乃

女房又不候と

ロヒヌキ傍

キのと各三先乃

揚たてどもそれとま

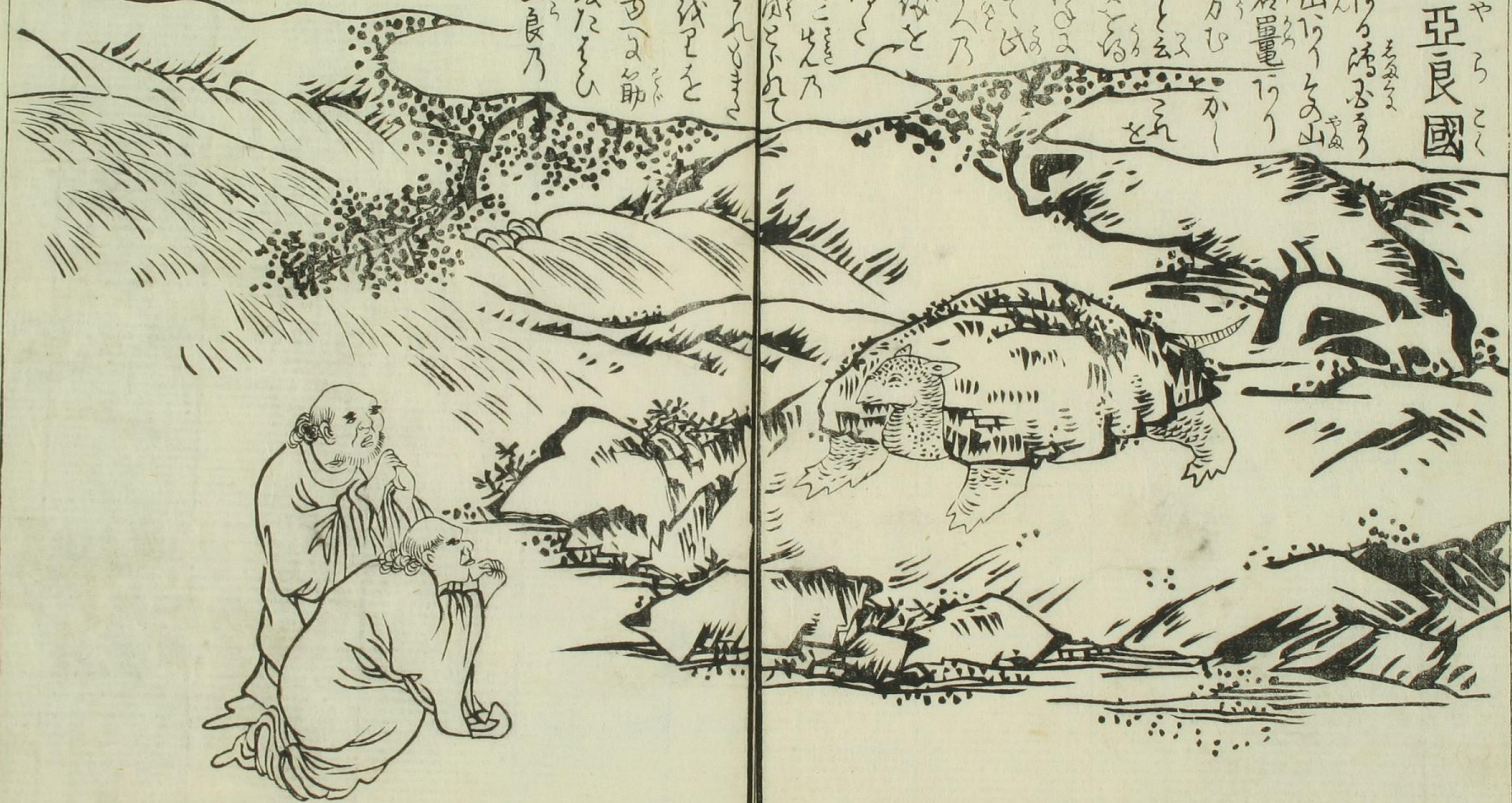
うてそのと代りを

もうかくはゆ(又筋)

底のヨシムナヒモ

ムアモトヨヒ

サク



○登流眉國

暖ふうてあすか
衣をぬき風
俊ひとまへあの
肩を抱きてわら
くよるまくらみ
西月の雅老によひ
狂翁とのくらむ
てのうすまよひと

とくのりひき
たゞとざむ
まゆよほ
ひんぎんよ

きくま
まゆよほ
まゆよほ

まゆよほ
まゆよほ
まゆよほ

まゆよほ
まゆよほ
まゆよほ



○智里國

國

南極出地七十夜

人傷なく暗穴の
中より掘んで土砂と管入

死せりとのられち
とほく百日と経て

生くせばこゝから

種ぐるまうらす

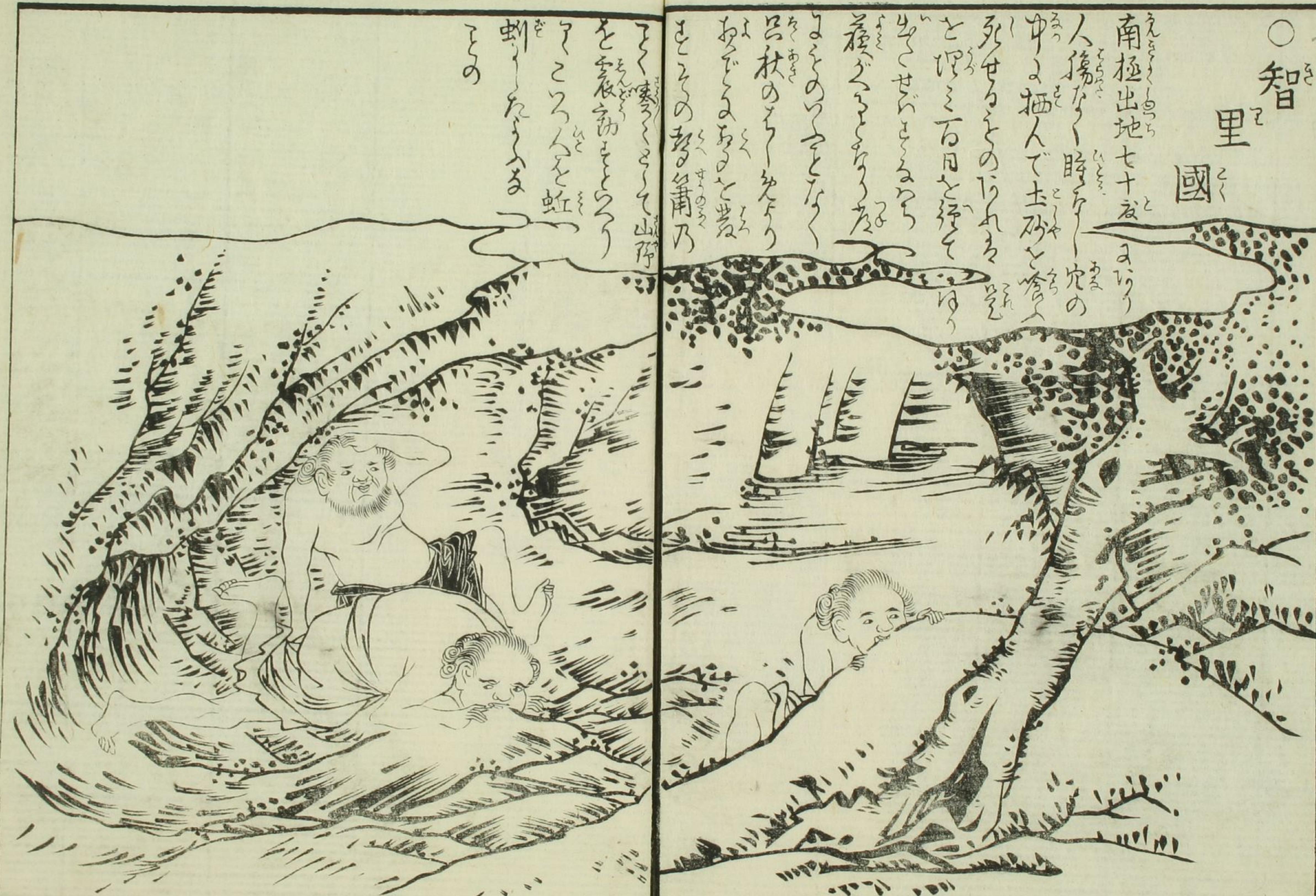
よそのつとむ

呂林のうへをうり

あがくよあらと農

をうのうる翁乃

とみ



○大日本國書舗之圖

所置會出日

遊記 金冊

歐陽永叔日本詩曰徐福
行時書未焚逸書百篇異國一覽金冊

東曲曰中國圖書盡
今尚存入宋景德日

購刊一時文物故班々

皇國の書又
蜀山の道りし
人も称すらせう今や
聖代の德化四海又安

ちくまをふの
ちくまをふの

家々又讀書一
戸々又講說て

恩故よ居よなげり

うるわしき

やれど

白國の書の

盛んすつよ

きひつけ書の

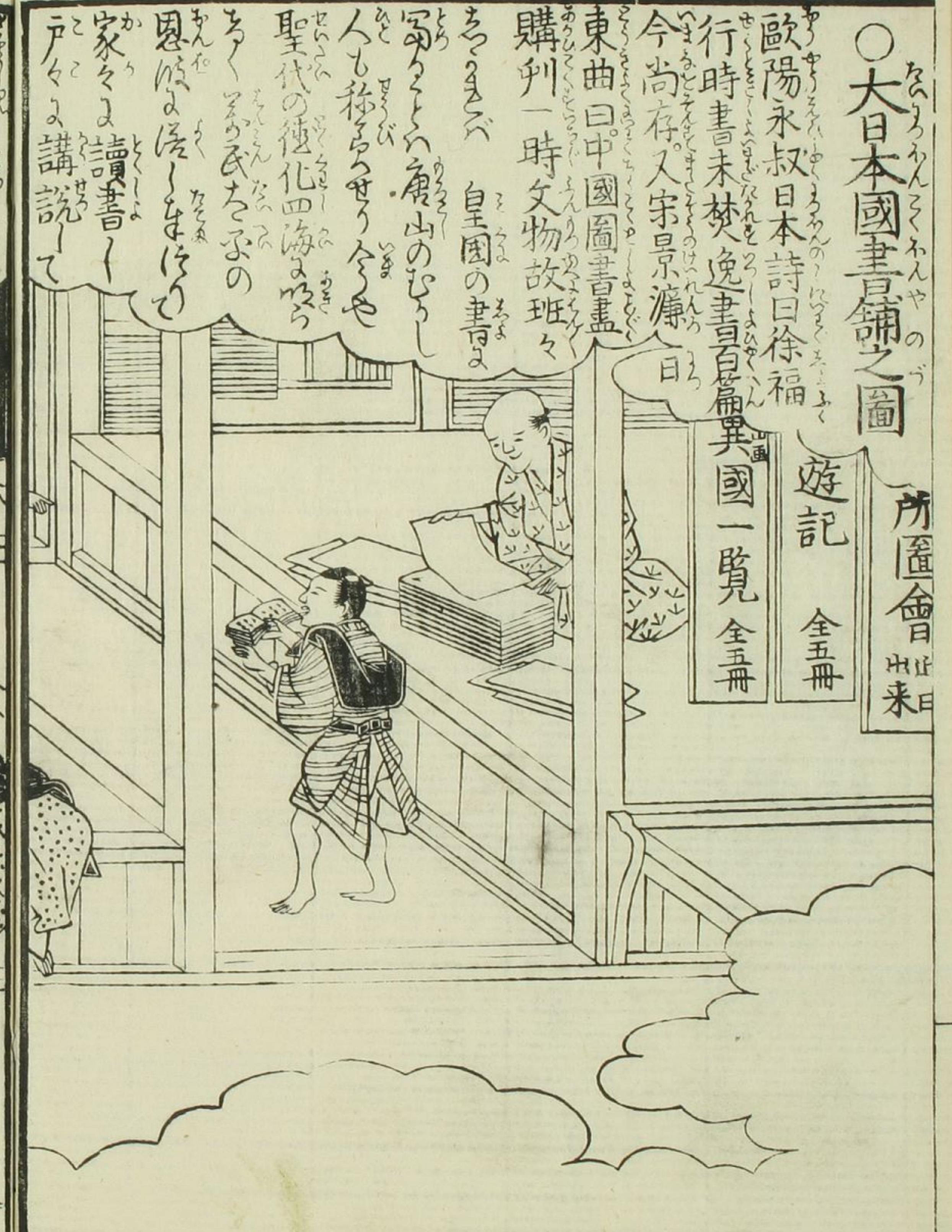
ぞくもとものに

あこぐれぬる
徳よそ平の余

ほとそと作

新

ぬ



接

千帆乃紹サクべううざるにひきのと發アラシ行スル
旋クモリうしてふまんり島國シマノを渡スルて
そ先ハシゆくとくゆかハシくとが圓田氏カニタシキ
筆ハタチこそのゆきハタチれ車ト実トコロと引ハシ
久カズハ未ハ傳ハシメ丸ハシマニ子ハシメ孫ハシメをと嘆トハシメ彼ハシメ及ハシメ
かハシメき是ハシメ國カニと一ハシメ死ハシメと爾ハシメ云ハシメ

勢尼白子 章人

- 杜工部集清本反刊
全八冊 淵諸義疏全五冊
- 近世叢語止續
全八冊 蘇東坡絕句全三冊
- 山谷詩文鈔全四冊 诗作捷徑全九冊
- 奇談一笑全一冊 日本諸家人物述小本
四冊
- 直入翁壽這岡錄古根拾遺
全三冊 必携新選書画一覽懷本
全二冊
- 唐木和本書畫法帖寶賞研
- 忠雅堂
- 赤志忠七版
- 大阪本樹心齋稿大坂本
一冊

